

桑木文庫について

平岡, 隆二
長崎歴史文化博物館 : 主任研究員

<https://hdl.handle.net/2324/10622>

出版情報 : 貴重文物講習会. 3, 2007-12-17. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :




桑木文庫について*

平岡隆二

(長崎歴史文化博物館・主任研究員)

12 Nov. 2007



*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

参考文献

- 岡邦雄「桑木彥雄先生」『科学知識』1947年5月号、20-24頁。
- 石蔵甚平「九大における科学史文献」『図書館情報』vol.2, No.12, 1966, 73頁。
- S.Nisio, “The Transmission of Einstein’s Works to Japan”, *Jap. Stud. Hist. Sci.* 18, 1979, pp.1-8.
- 会田軍太夫「九大時代の桑木彥雄先生」『自然』1981年12月号、88-96頁。
- 田中節子「桑木彥雄と日本の物理学—相対性理論を軸として」、辻哲夫編『日本の物理学者』東海大学出版会、1995年、31-54頁。
- 我孫子誠也「桑木彥雄「絶対運動論」(1906)における相対運動概念」『科学史研究』第45巻、2006年、185-188頁。

桑木彥雄(1878-1945)略歴

- 明治11(1878):東京生まれ。
- 明治32(1899):東京帝国大学理科大学物理学科を卒業(力学研究。師・山川健次郎)
- 明治37(1904)頃:東京物理学校で講師。日露戦争服役。
- 明治39(1906):『東京物理学校雑誌』に**処女論文「絶対運動論」**を発表。
- 明治40(1907):同誌に**論文「電子の形状について」**を発表→日本への**相対性理論**の最初の紹介
- 明治40(1907):私立明治専門学校開設とともに着任。ヨーロッパ留学。

略歴つづき

- 明治42(1909): **アインシュタイン**と会見。
- 明治44(1911): 九州帝国大学工科大学開設とともに着任(数学・力学・物理学教室。後、理科教室。理学部創立とともに応用理学教室)。
- 大正3(1914): 理学博士
- 大正7(1918)頃: **科学史に関する資料の収集を開始。**
- 大正11(1922): **アインシュタイン**来日
- 昭和13(1938): 九州帝大定年退官。旧制松本高等学校長に就任。
- 昭和16(1941): **日本科学史学会初代会長。**
- 昭和20(1945): 信州にて病没。墓は真浄寺(東京都文京区)。

処女論文「絶対運動論」1906年

- 「絶対静止、絶対進行を考ふるには現在には電子論の影図に入るべからざるなり。唯だ電子論影図が他の**関係運動**を以て根拠とする影図により代えられるなきや否やは自から別問題となる」
 - 「関係運動」=のちに「相対運動」の訳語で定着
 - 「絶対運動」概念を排斥し「相対運動」概念を擁護
 - 明らかにアインシュタインを示唆 cf. 我孫子(2006)
- 1905年、アインシュタイン特殊相対性理論発表。欧でも1906年にプランク論文「相対性原理と力学の基本方程式」発表後、ようやく議論されるようになる

論文「電子の形状について」1907年

- 日本におけるアインシュタイン特殊相対論の最初の紹介

「アインシュタイン氏(1905)は・・・絶対運動を理論の根拠より除き、又二つの場所に於ける同時刻の概念には其の両所の間合図を交換するために光の伝播時間を挟めること等、ロ[ーレンツ]氏の所謂局所時刻の考えを容れ・・・」

- 桑木『物理学序論』(1921)の序

「要するに、法則は事実の言い表しとは言えぬ、法則と仮説の間に截然たる区別はない、仮説は物理学の成立に欠くべからずと言おうと思ったのである」

ヨーロッパ留学(明治40/1907年～)



1909年。本田光太郎・桑木・友田鎮三・寺田寅彦

*Draft-Not for quotation (2008-01-27 写真提供: 東北大学史料館「東北大学関係写真データベース」
revised)

アインシュタインとの会見

- 1909年3月、妻宛の絵葉書、スイス・ベルン
「アインシュタインと云ふ近頃有名の物理学者を特許局に尋ぬ。頗る特色ある人なり。大に喜びて迎へ町を話しながらカフェーへ行く。話し、昼食後また話し続けて別れ、それより一通り町を見る」
- 1922年アインシュタイン来福

桑木宛のアインシュタインの色紙

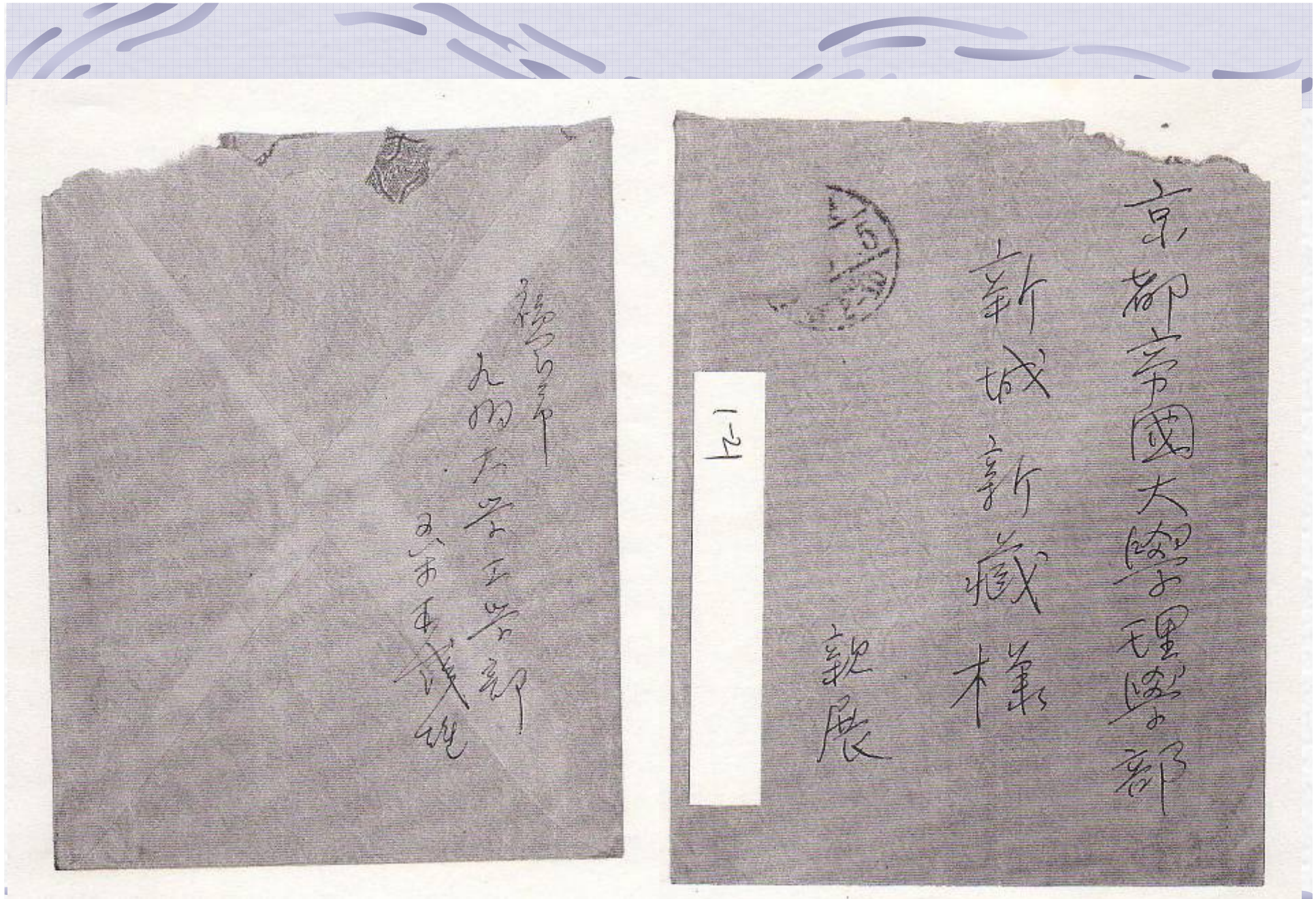
“私が知り合う喜びを持った最初の日本の物理学者である物理学者兼認識論学者桑木教授へ。

アルバート・アインシュタイン 1922年
自然はつんとすました女神である”

直筆の黒板(1922年福岡)

新城新蔵宛・桑木書簡7通

- 京都大学理学研究科宇宙物理学教室「新城文庫」所蔵。
- 大正15(1926)3.5～同年9.25、計7通
- 新城新蔵(1873-1938)京都帝大教授・総長、上海自然科学研究所長。『東洋天文学史研究』1928年
- 他に草稿類、寺田寅彦・田中館愛橘書簡等



*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

京都大学理学研究科宇宙物理学教室「新城文庫」所蔵

Proceedings of the Third Pan-Pacific Science Congress, Tokyo, Oct. 30th- Nov. 11th, 1926の桑木原稿をめぐるやりとり

- 1926.3.15「三日附御手紙難有拝見致しました。先日は東洋天文史綱御論文一部御恵贈下され難有拝受致しました・・・
- ・・・汎太平洋のはコンテンポラリーの事柄はなき故書方には自由であります、拙く書けば国の価値にも関する事となり、私の研究が浅薄でもあり又広くもない事に畏れを抱き始めました・・・
- ・・・彼様の事を今更申上られた次第でないかも知れませんが、御予定の中口は小生の分は必しもなくとも体裁上に欠くるやうな事はなき様にて・・・

「…今更何とも申訳ありませんが出来たらば汎太平洋の会の口に提出するとし今度の御計画の要覧中より御除き下さる様御願と云ふよりは違約を御高免下さることを御願申上度存じます…」

7.12「御来示の趣、小生誠に申訳なき御違約何とも御詫の言葉もありません。然るに厚き御同情を賜はり、先般朝日に掲載のを英訳し下さるべき旨、誠に難有感謝の山に存上ます」

7.20「漸く誠に短かく蕪雑なものですが書上しましたから早速御目にかけます。翻訳其他については一切御考に御任かせ致します。表題も適当に御願致しますが私の書きましたのはPhysical Sciences in Japan, from the time of the first contact with the Occident until the time of Meiji Restorationとでも致すべきや…」

- 8.13「拝啓 酷暑の候愈御□□賀上ます。扱先般御送下されました訳文について左の二三の点御訂正を願へれば幸甚に存上ます・・・」
- 8.15「復英文訂正原稿難有拝見致しました。種々御高配に預り拝謝の至に存上ます・・・」
- 9.25「御手紙難有拝見仕りました。愈御健勝奉賀上ます。種々御高配に預り拝謝の山に存上ます。別刷は五十部で結構です・・・」
- その他、翻訳の修正・追加、戸畑の明専での紛争と山川総長(3.15)など。
- 早大に桑木宛書状(島村抱月・松井須磨子・西田幾多郎・田辺元・長岡半太郎)数百通が2000年寄贈。

桑木文庫(和書)の成立過程

【1】長崎・大分での日本科学史資料との出会い

- 桑木(1944)所収「科学史の研究(1941年)」
「・・・私は九大在任中、大正の初[7, 1918~]に
函ず長崎で本木[良永]、志筑[忠雄]等阿蘭陀通
詞の訳稿等を見、又大分で[三浦]梅園及[帆足]
万里の著述草稿等を見てから、日本支那の科学
の古文献の蒐集を思立ち、続いて西洋の科学史
文献を集め、三十年余の間に相当の量に達しま
した・・・」

本木良永(1735-1794)

- 日本に初めてコペルニクス説(太陽中心説)を紹介したオランダ通詞



長崎歴史文化博物館所蔵



大光寺の良永墓碑銘(檀林栄哲撰)

かつて良永は、命を受けてオランダ書を翻訳した。季節は厳冬、自ら冷水を体に浴びて、素足で諏訪神社にお参りし、仕事の成就を祈った

ある人が良永に「貴方はすでに老齢なのに、どうして自らそれほど苦しむのか」と言うと、「私の家は代々翻訳でお給料をもらってきた。その仕事を尽くして死んでしまっても、それは私の本望である」と答えた。

翻訳書(天文学関係中心。いずれも草稿・控
が長崎歴史文化博物館蔵)

- 『阿蘭陀本草』明和8(1771)
- 『阿蘭陀地球図説』明和8-安永元(1772)
- 『天地二球用法』安永3(1774)
- 『日月圭和解』安永5(1776)-天明7(1787)
- 『阿蘭陀永続暦和解』天明8(1788)
- 『太陽窮理了解説』寛政4(1792) など

『阿蘭陀地球図説』

- 松村元綱と、明和8(1771)~安永元(1772)に翻訳。
- 元本Atlas van Zeevaart en Koophandel door de geheele Weereldt, 1745 (原著L.Renard, Atlas de la navigation et du commerce qui se fait dans toutes les parties du monde, 1715)
- 内容は天文地理学・航海術の事項、天動・地動説。

良本
永木

清士

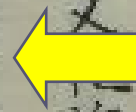


初めてのニコペルニクス説紹介

長崎歴史文化博物館所蔵

全カラズト雖ル應帝亞ノ教ニ從ヒ又
從ヒ新地圖并ニ地球器ヲ作り其末千四百七十二年ニ
當テ波羅泥垂國ノトヲルント云ル所ニニコペルニクスト
云レ人生レ世ニ出テ數度ノ測量ニ由テ古人數多ノ思惟
ノ天ノ不動地球ノ不轉ハ彼ノ毎日ノ運リ毎歲ノ運リ正

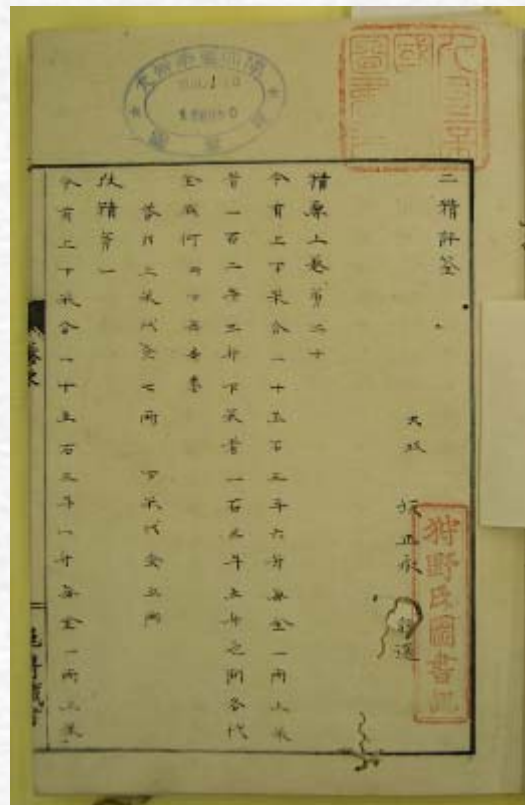
竇ナルヲ見聞キ天及ヒ恒星ハ不動ナルヲ教エ其運行
ノ原ハ地ハ地球ノ心ヲ以テ轉シ其他ノ諸曜モ共ニ日曜
ノ周リヲ運行シテ日曜ヲ中心トス此思惟此時代ニ及ブ
ニテ奇怪ナリトシ遐棄セシナリ初テ此思惟精密正直ナ
ルヲ賢者モ門路ヲ求メ總テ學識ノ人々今是ニ一致ス



【2】狩野と鮎川

- 「…其中、**狩野亨吉**先生が日本の古暦天文書を蒐集せられたものを譲受けたものもあり…皆九大の教室所蔵で、資金は**鮎川義介**氏の好意に依つたものもあります…」
- 狩野亨吉(1865-1942)。一高校長・京大文科大学長。
- 鮎川義介(1880-1967)。日産コンツェルン創始者

「狩野氏図書記」印



二精評筌(天文和算43)

九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

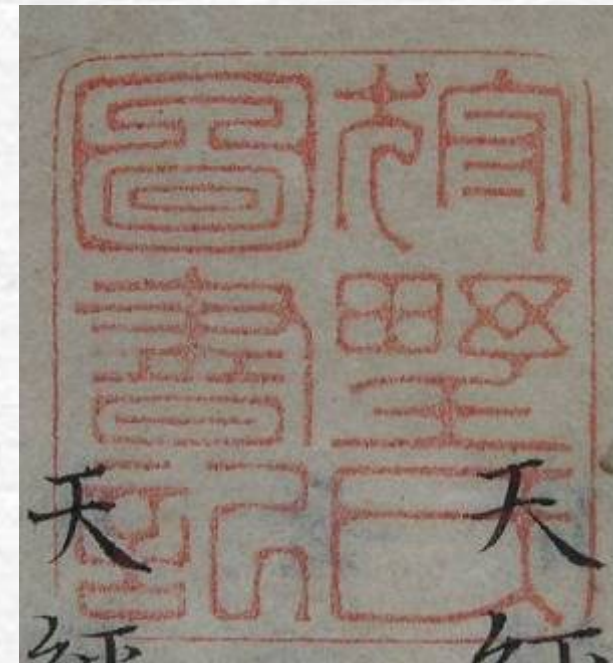
九大OPAC「狩野氏図書記」 で55件ヒット

下記以外はすべて桑木文庫の和算・天文和書

- 杉田玄白譯『重訂解體新書銅版全圖』医学分館・和漢古医書カ31
- 堤朝風輯・萬笈堂英遵補定『近代著述目録』8巻、中図保存書庫 和装 010/キ/6
- [近藤正斎著]『享保探訪書目』中図 保存書庫 和装 010/キ/8
- 堤朝風[編]『白石先生著述書目』中図 保存書庫 和装 010/ハ/3
- 坂正永評選『二精評詮』中図 貴重書庫 天文和算/算術/43

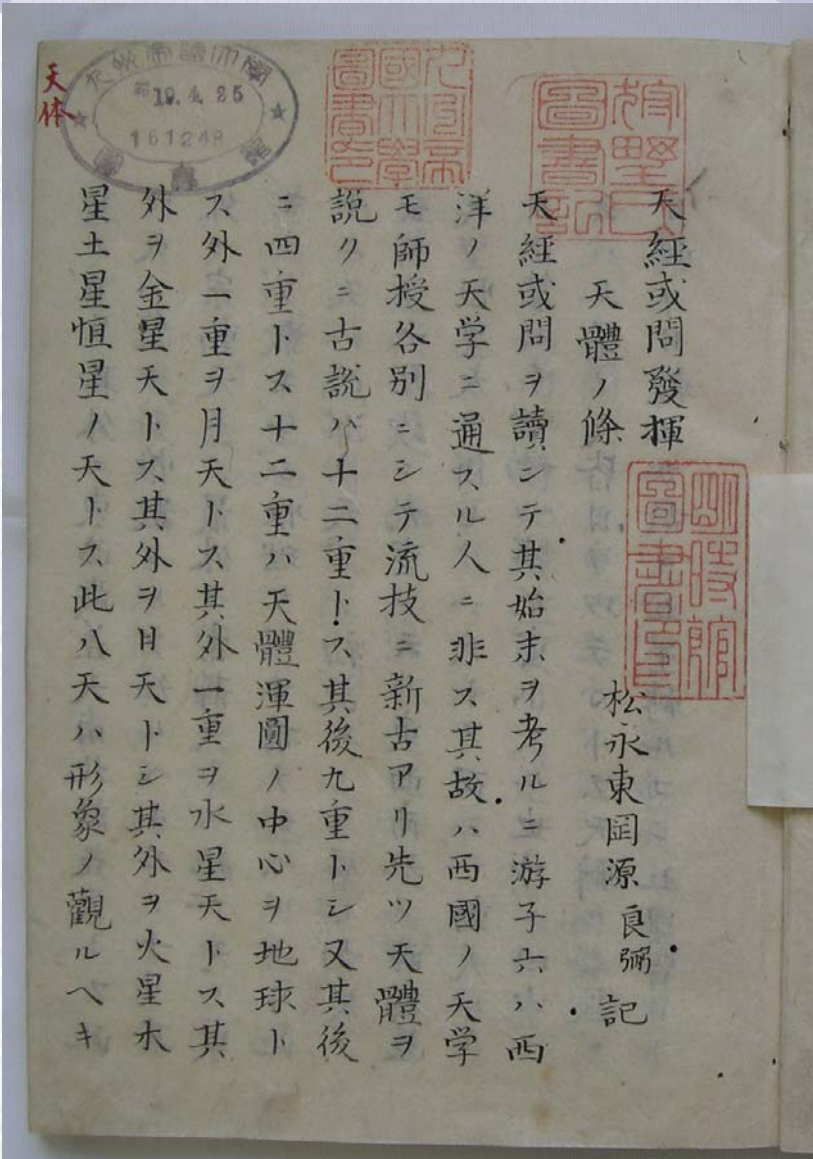
狩野別印

松永良弼『天経或問
發揮』(和18)



狩野氏

図書記



九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

【3】「科学史研究所」設立の希望

- 「・・・然し固より未だ甚だ不完全なものであり、今日、和算書の蒐集に於て帝国学士院、東北帝大等、医書に於て京都帝大等、其の他数家の蔵書に著名なものがありますが、近来一般に我国に於て科学に対する関心が高まると共に科学史研究者も増加し、遂に日本科学史学会の設立を見るに至つたのでありますから、将来**前述のサートン氏等の唱ふるが如き規模の科学史研究所が、東西両洋の文化の研究に地の利を得たる我国に於て、理想的なものが設けられることを希望するのであります**」

桑木文庫の和書から

- 「桑木文庫目録」『科学技術史研究』1968年, vol.2, pp.63-93.
- 近世期の和算・天文に関する重要刊本をほぼ網羅
- 貴重な写本も多数架蔵



写本「天文要解」(和248)

- 著者・成立年に関する記載無し
- 奥書「元文元年[1736] 丙辰十一月上澣 於東武 谷垣守謹識」

右天文要解上下二冊國島榮庵犬所藏也蓋醫家者流所講習運氣推測餘流也歟然天象之論明備足與天經或問等并考焉以故託大藪生騰寫校閱為家珍云爾

元文元年丙辰十一月上澣 於東武 谷垣守謹識

天文要解目錄
 五行之部
 五行相尅相生之事
 万物之性之事
 春笈秋冬之氣之事
 血痰黃水凝血之性之事
 五行所在之事
 風火土水大小之事
 地形圖象之事
 地程度數之事

春笈秋冬四季有國々之事
 地者在天之正中事
 重物之所在天之正中之事
 大地無動搖事
 地震之事
 水原之事
 地中涌湯之事
 海中于滿之事
 笈井清冷冬井溫暖之事
 風氣之事

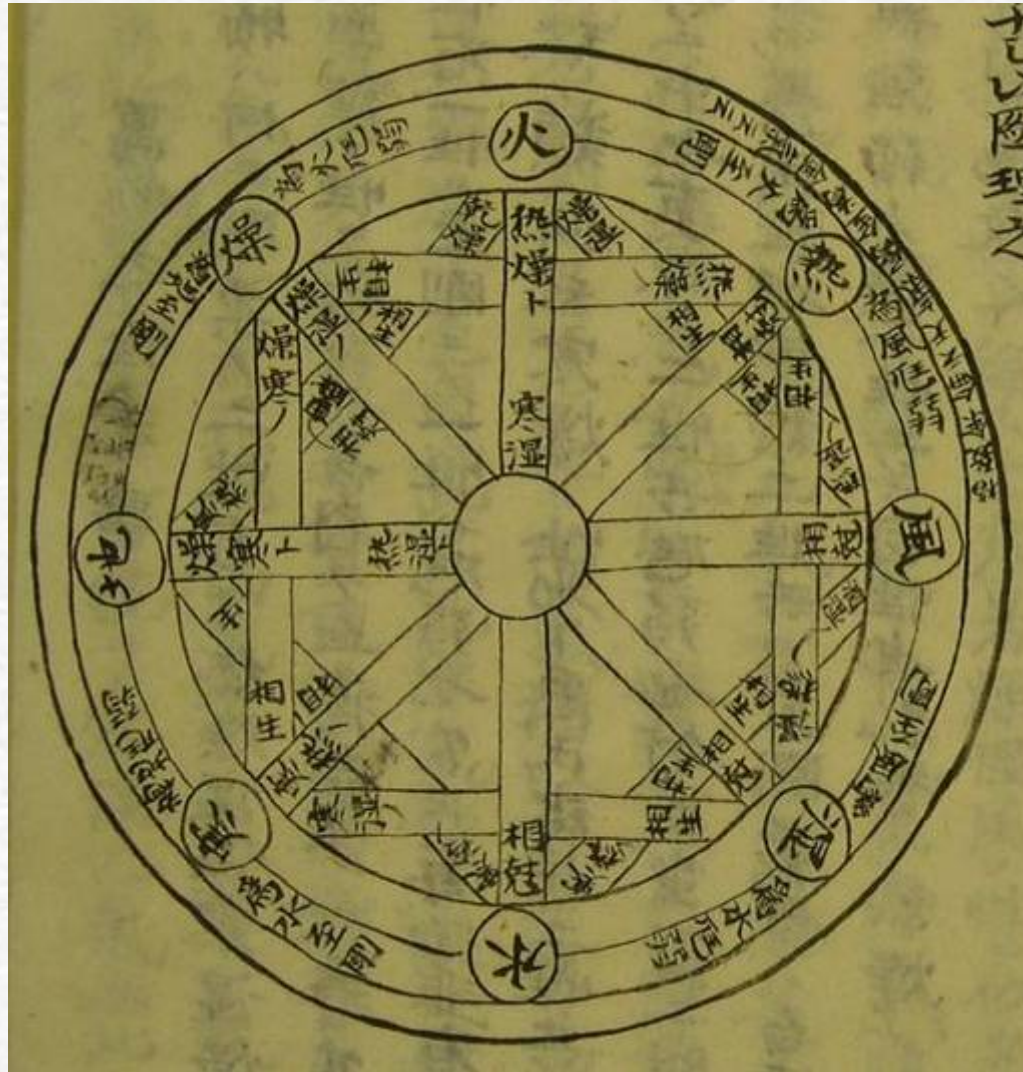
電之弁
 雷光之弁
 虹之弁
 流星之部

風水二氣之事
 風中二生類
 露之辨
 霜之弁
 霧霞之弁
 中部ノ風中二生スル類
 雲之弁
 雨之弁
 雪之弁
 霰之弁

九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27 revised)

「四元素」図



- 古代・中世ヨーロッパで支配的であったアリストテレス(BC384-322)の自然学に基づく
- 近世初期に遡る「南蛮宇宙論書」の1つ

『天文要解』=『南蛮運氣論』の異称本

- 『天文要解』土佐山内家宝物資料館・山内文庫本
- 『南蛮運氣論』豊橋市美術博物館・大河内家文書本
- 『南蛮運氣論』神戸市立博物館・秋岡コレクション本
- 『天文運氣論』天理図書館・「天文秘書」所収本

との比較

『南蛮運氣論』＝『乾坤弁説』(1650年頃成)の異本

- 寛永20(1643)年潜入神父より「天文書」を
押収
- 転び伴天連・沢野忠庵(フェレイラ)がローマ
字訳
- 長崎通詞の西吉兵衛と儒医・向井元升が
編集して『乾坤弁説』として成立

西洋→日本・中国

比較:

C.クラヴィウス『サクロボスコ天球論註解』、
ローマ、1581年

M・リッチ『乾坤体義』、北京、1605年

桑木本＝山内本からの転写本

右天文要解上下二冊國島榮庵丈所藏也
蓋醫家者流所講習運氣推測餘流也歟然
天象之論明備足與天經或問等并考焉以
故託大敷生騰寫校閱為家珍云爾
元文元年丙辰十一月上澣
於東武谷垣守謹識

(財)土佐山内家宝物資料館所藏

右天文要解上下二冊國島榮庵丈所藏也蓋醫
家者流所講習運氣推測餘流也歟然天象之論
明備足與天經或問等并考焉以故託大敷生騰
寫校閱為家珍云爾
元文元年丙辰十一月上澣
於東武谷垣守謹識

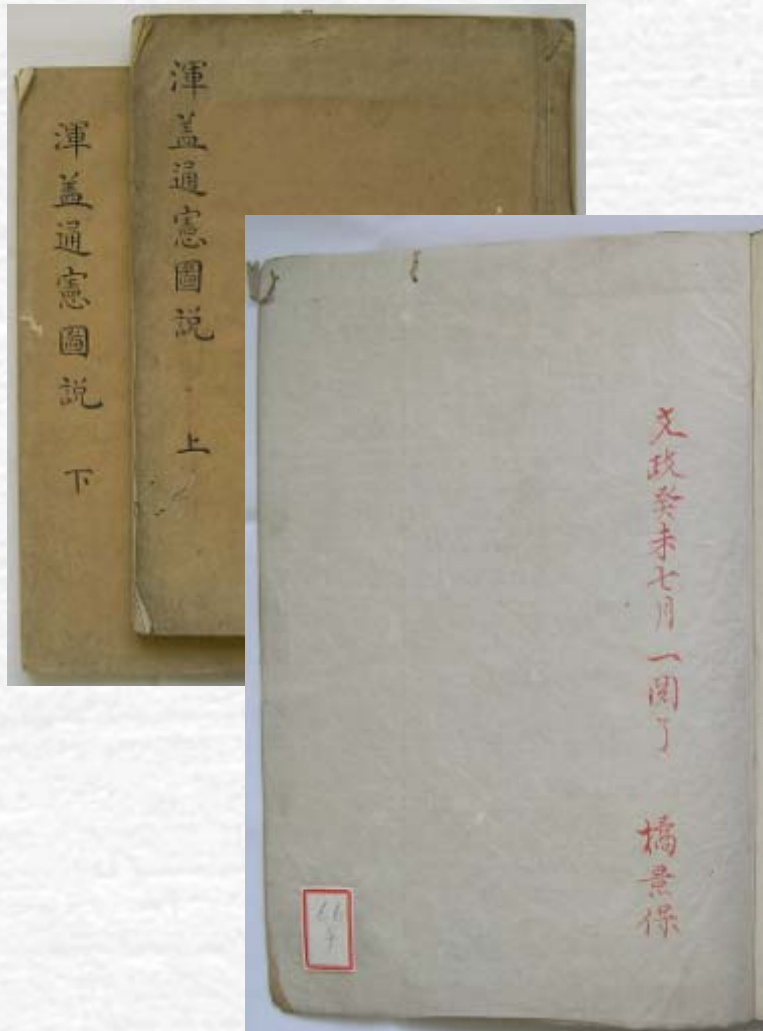
九州大学附属図書館 桑木文庫所藏

- 奥書・虫食い穴の一致
- 元文元(1736)年以降の成立
- 国島→谷系統の写本がさらに転写され流布していたことを示す

(左)土佐山内家宝物資料館蔵『天文要解』卷末奥書

(右)桑木本『天文要解』

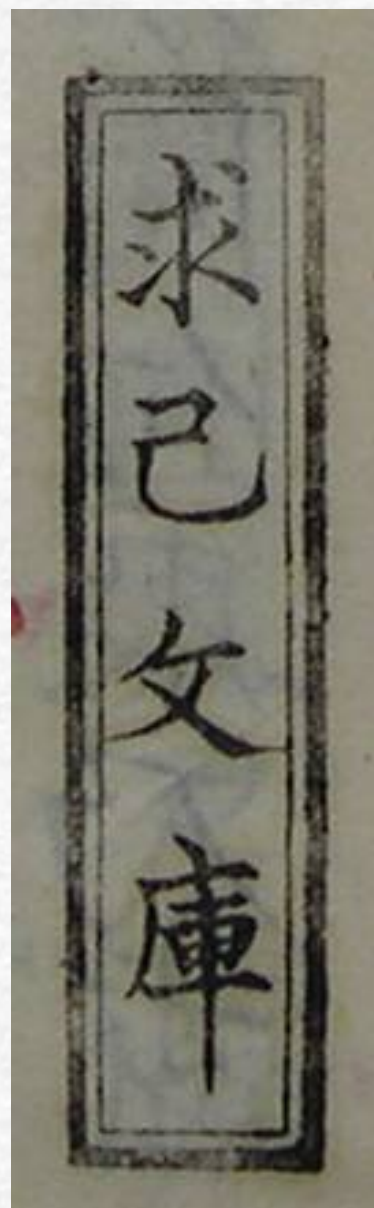
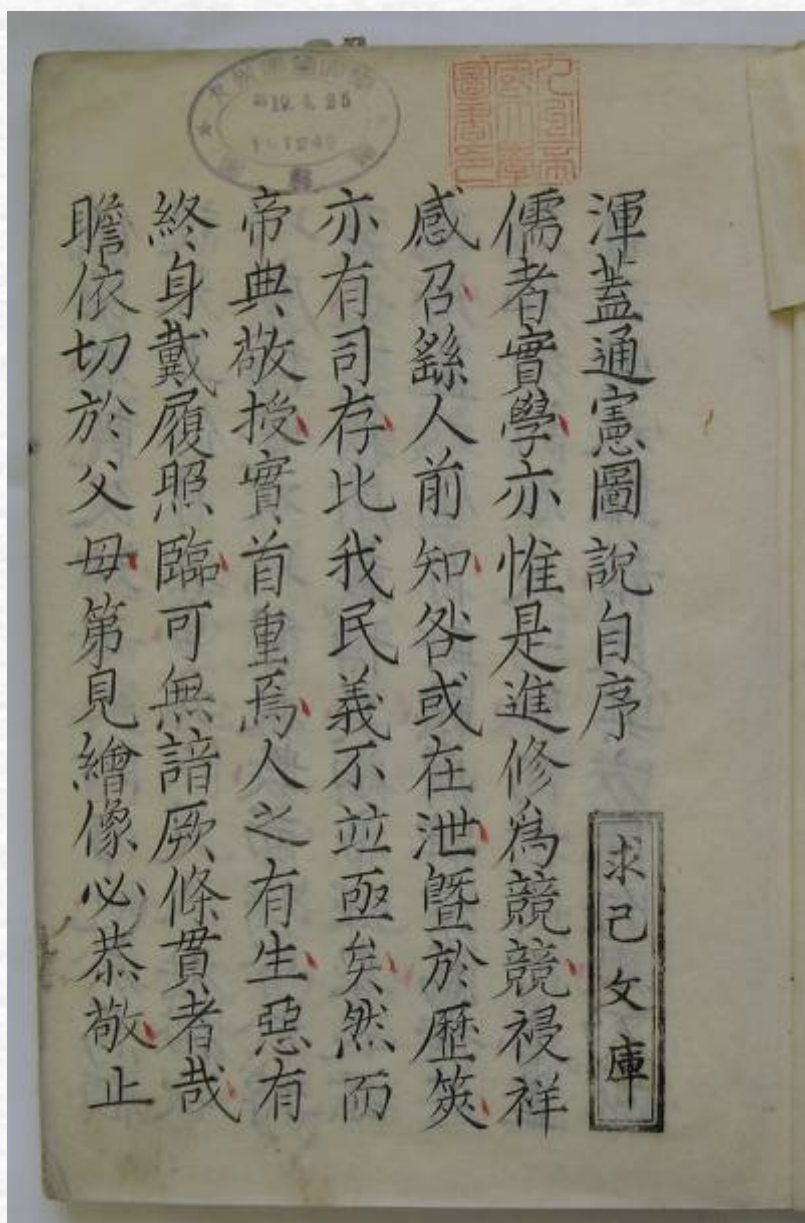
写本「渾蓋通憲図説」(和31)



九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

- 中世ヨーロッパで最も重視された天文観測器「アストラーベ」の製作・使用法
- M.リッチ口授・李之藻筆受。1607年刊(『天学初函』1629年所収)
- 原本クラヴィウス『アストロラビウム』ローマ、1593年
- 奥書「文政癸未[6, 1823]七月一閱了 橘[高橋]景保

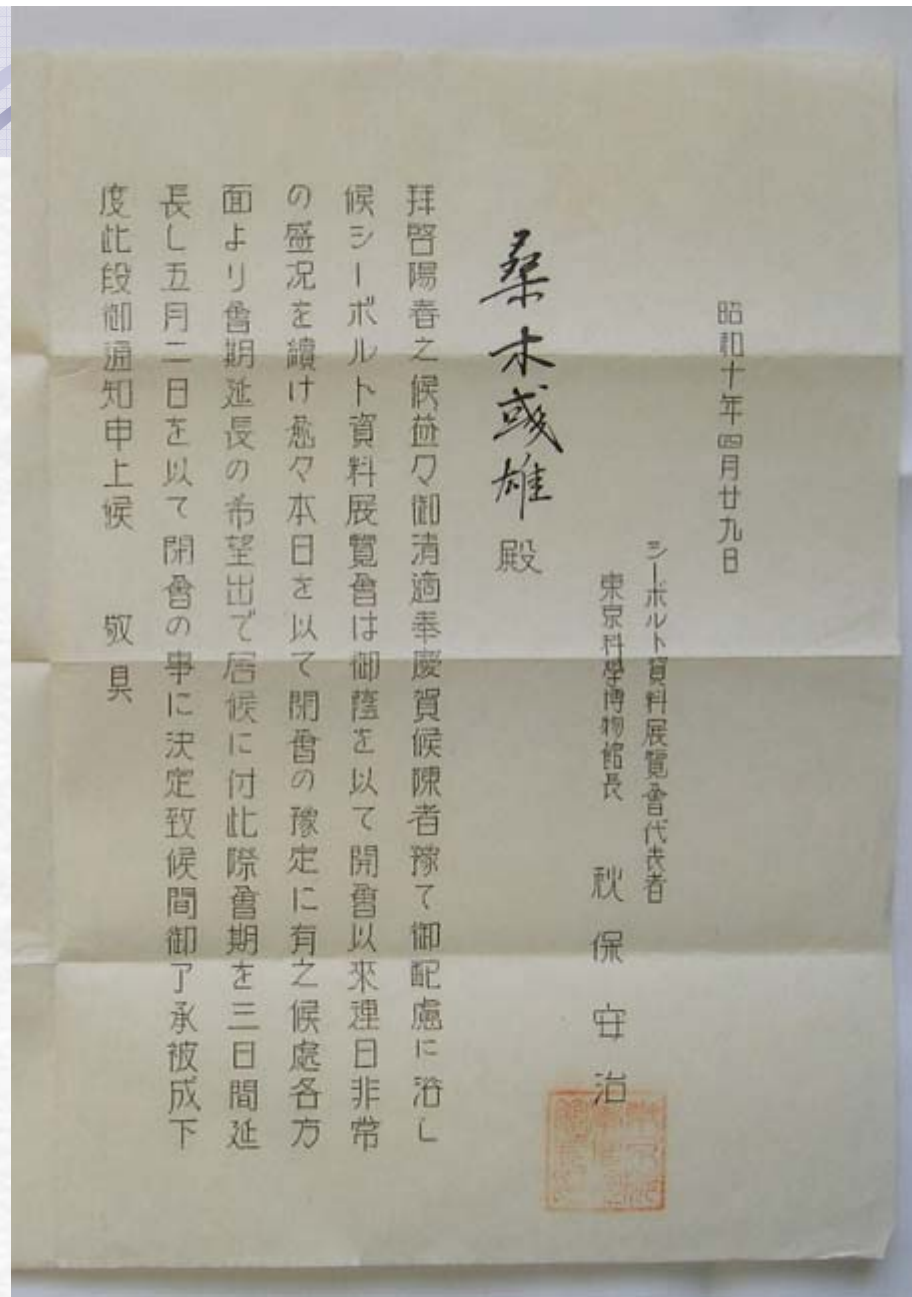
景保印記「求己文庫」



桑木宛書簡

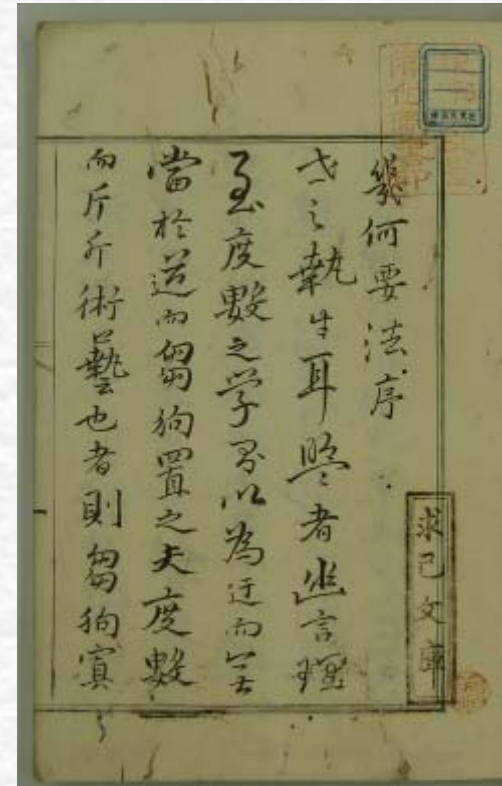
- 昭和10年、東京科学博物館館長
- 「シーボルト資料展覧会」に出品中の本資料を、3日間会期・出品延長したいと依頼

九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵



*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

他の「求己文庫」印



国立天文台三鷹図書室所蔵

- 「幾何要法」(国立天文台1590番)
- その他、東大附図南葵文庫、国会図、早大図

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

写本「天経或問發揮」(和18)



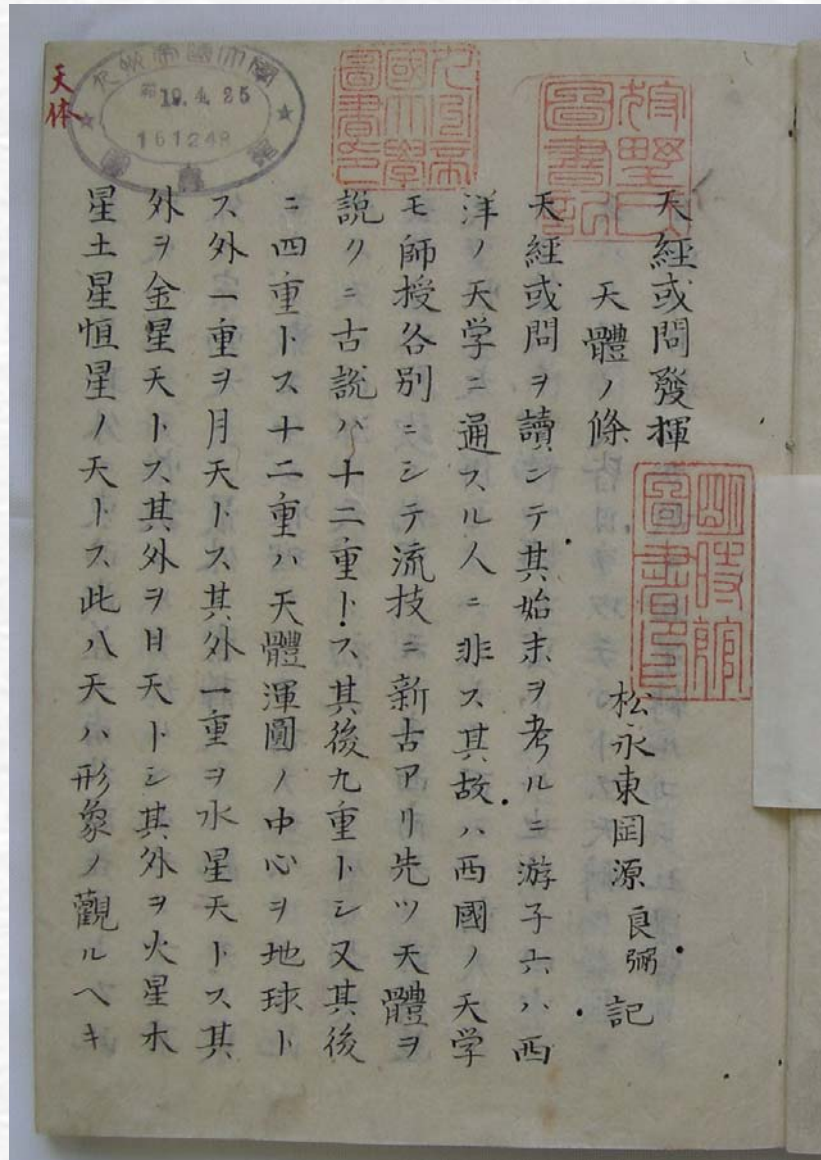
- 享保20(1735)年識語
- 著者は関流和算家の松永良弼(1692?-1744)。
- 江戸中期以降に幅広く流布した遊芸著『天経或問』の注釈本

九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

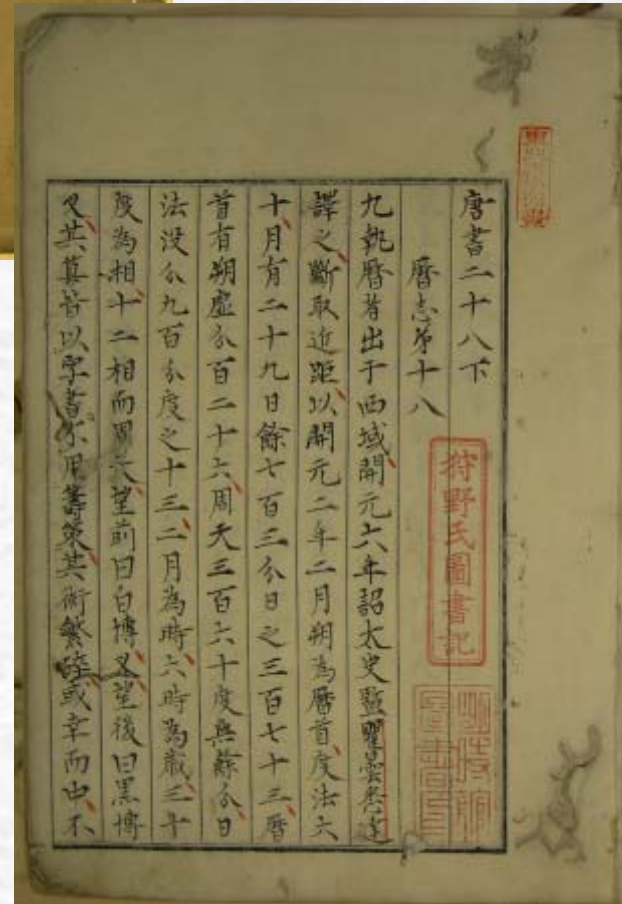
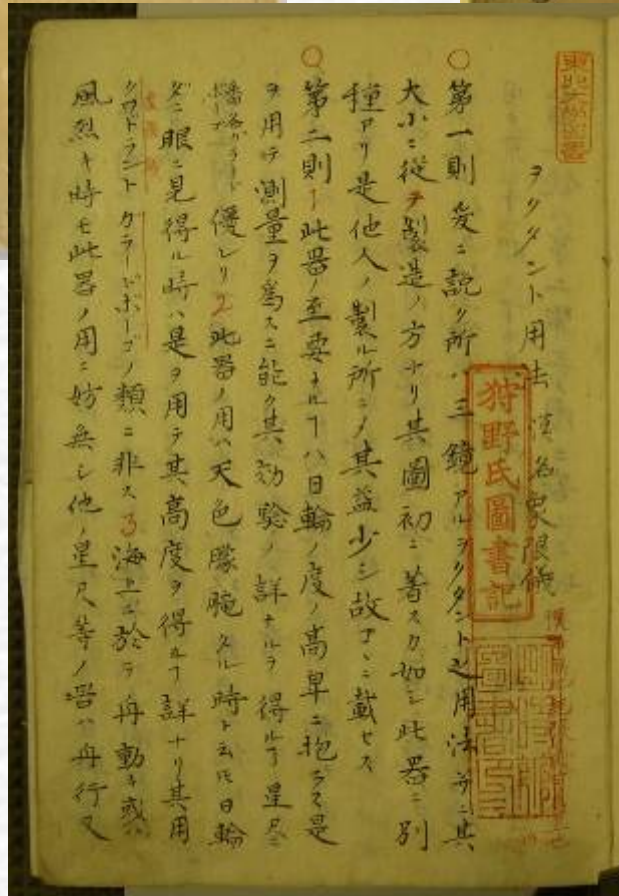
蔵書印

- 狩野氏図書記(別印)
- 明時館図書印(渋川景佑の蔵書印)



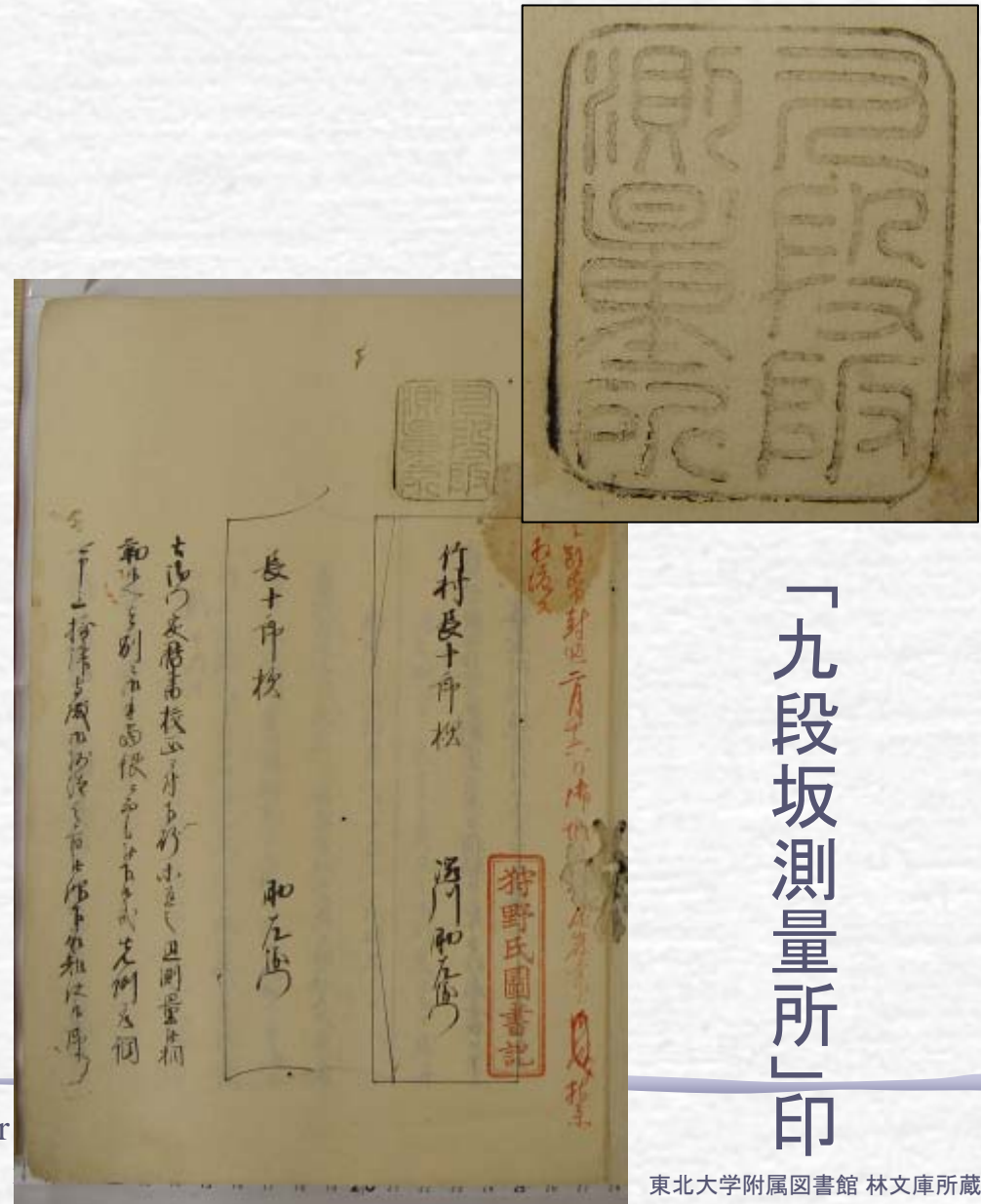
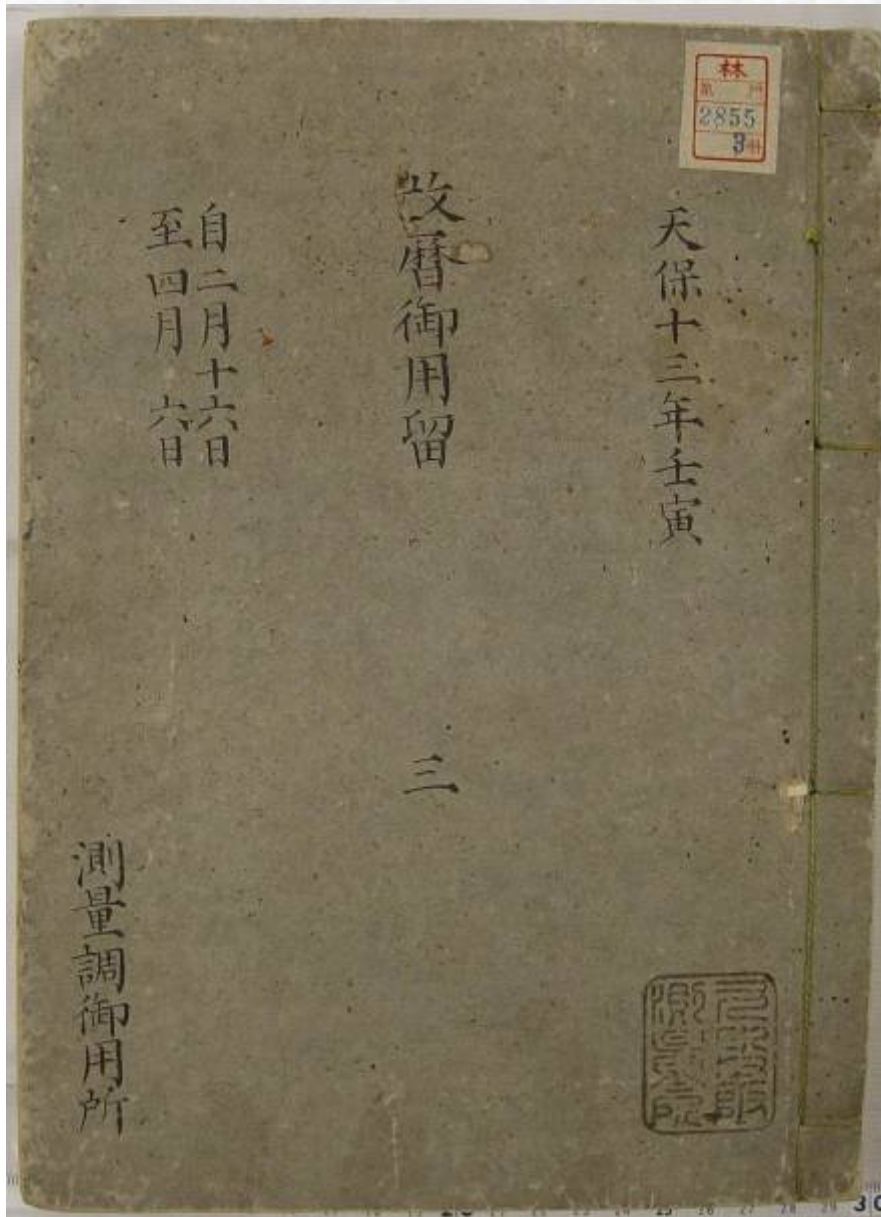
※渋川春海
印は誤り

他の 明時館本



● 渋川景佑『暦学叢書』巻16、『明時館叢書』(東北大学林文庫2858および2862)

改曆御用留(東北大林2855)



「九段坂測量所」印

『仏国曆象編』

(和57-60[A-D])



桑木A本(和57)

九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

様態: 版本。五卷五冊。

成立: 文化七年(1810) 初版。

その後複数の改訂版が出される。

著者: 釈円通(1754-1834)。

内容: 古今東西の書籍を探索しつつ、仏典中に見られる世界観・宇宙論と矛盾しない天文曆学理論を体系化・説明しようとする試み。江戸後期～明治期の“**梵曆運動**”の火付け役的著作

梵曆運動

- ❖ 西洋の宇宙論や天文学が広まることにより、仏教の権威が失われることを恐れた僧侶らが展開した「地球・地動説」批判・「須弥山説」擁護を主眼とする思想運動
- ❖ 狭義には、江戸後期に活躍した釈円通に端を発する運動を指す。明治末期にはほぼ収束

円通の諸著作『仏国曆象編』(1810~)
『須弥山儀銘并序和解』(1819)等

梵曆運動

(江戸後期~明治時代)

執筆・講演活動



多くの弟子・追随者を生む

田中久重作「須弥山儀」
(龍谷大学蔵)

多方面からの批判・論争(幕府天文方、仏教者など)

円通肖像（京都・大行寺蔵）

因幡の人。七歳で出家して日蓮宗の寺に入り、長じて天台宗に転じる。成年の後、京都積善院（聖護院山内）に住し、晩年江戸に至り芝増上寺内の恵照院に住す。

梵曆開祖之碑（仏光寺・東山区栗田口）

先行研究での梵曆運動の位置づけ

1. 称揚的:「幕末尊攘論の先覚」

ex. 工藤康海(最後の梵曆家)

2. 歴史研究の対象として:多くは「近代(科学)」に対する「伝統(宗教)」の一反応・対抗運動として分析。

ex.「要するに時代錯誤、到底発達せる西洋天文学の敵ではない」(新城新蔵『こよみと天文』313頁)

3. 思想史的観点からの再評価

M.Okada, *Vision and Reality: Buddhist Cosmographic Discourse in 19th-century Japan*, UMI diss. serv., 1997, p.224.

“Entsu reconsidered Buddhist thought in terms of a new framework(Buddhist astronomy) and reconstructed the Buddhist worldview in a form that corresponded to the new conceptualization of the universe of the modern scientific worldview”

特徴

- 版本ごとにかかなりのバリエーションが見られる
(空白は未調査の項目)
- 「前期(文化七年以降成立:I、II)」[1]~[15]と、
「後期(文化十二年以降成立:III、IV)」
[16]~[32]に、大きく二分される
- テキストの異同等に基づいて、さらに細かな成
立順序の推測が可能(I→II→III→IV)

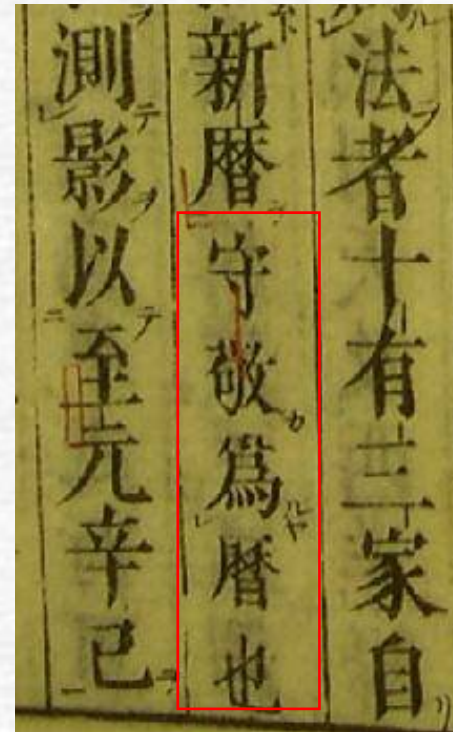
- ⑩[1]大島本・[2]高橋本の「貼紙」補修が、
他では「埋木」補修
→両本は初版初刷りにもっとも近い版本



- ⑪テキストそのものを「埋木」によって変更
→少なくとも複数回「埋木」されていた



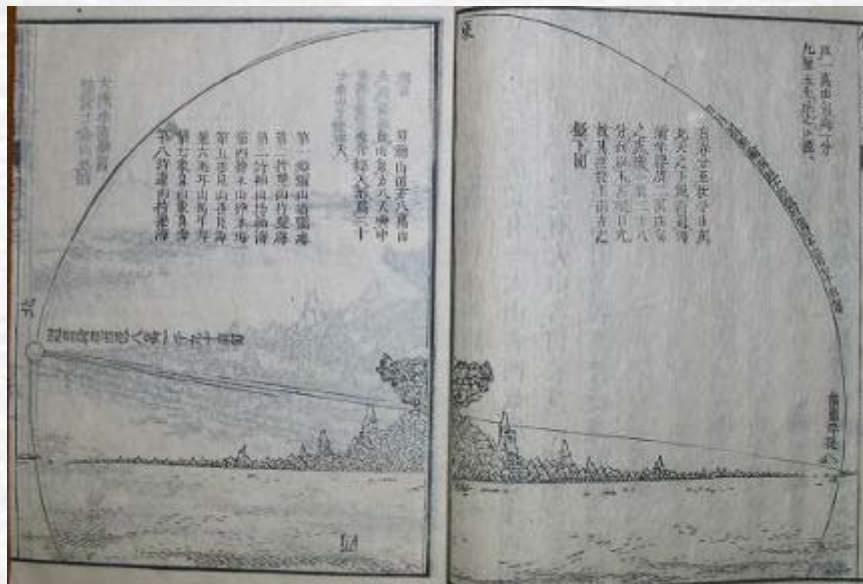
大島本・三枝本



桑木A本・藤原文庫本他

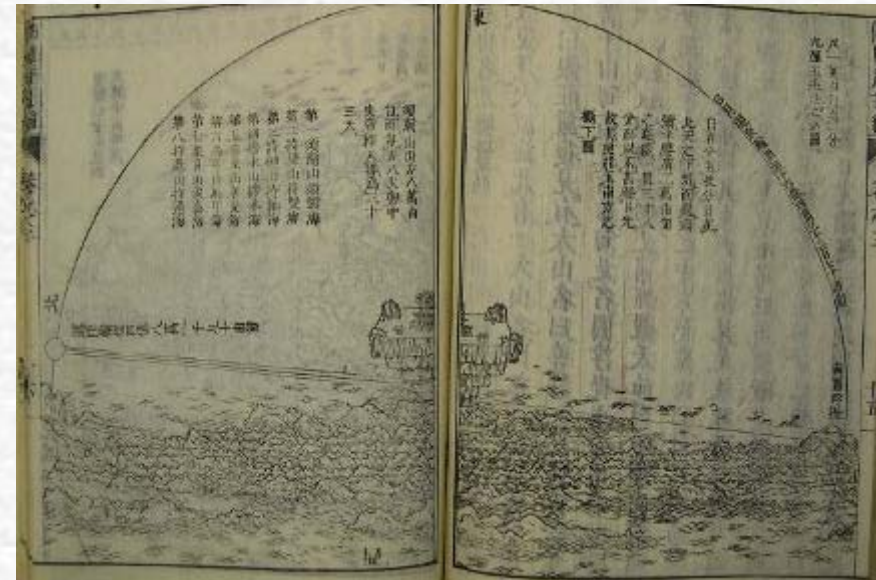
九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵

⑭挿図の変更 卷二「須弥山図」

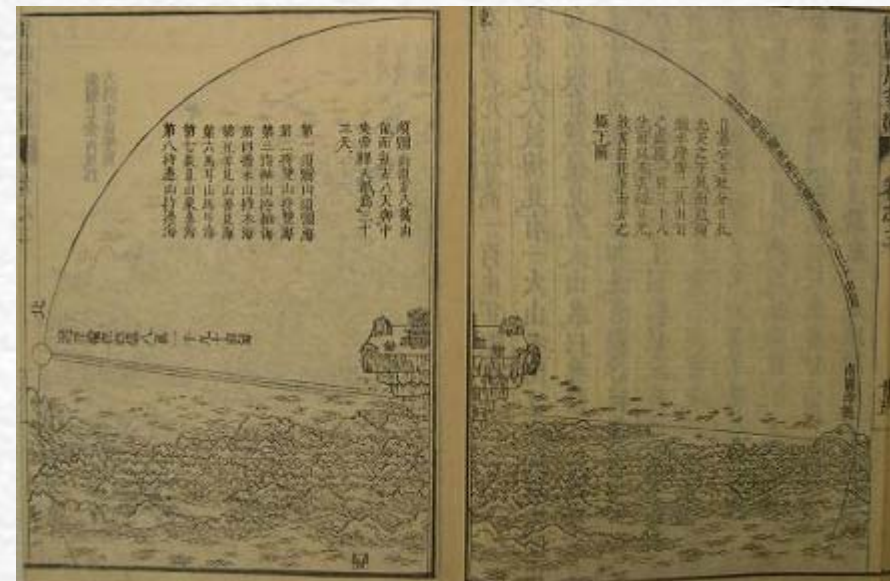


タイプII(桑木C本など)

九州大学附属図書館 桑木文庫所蔵



タイプI-1(大島本など)



タイプI-2(平岡本など)

誰による、何のための改修か？

- 文化七年(1810):初版本の出版



- ・円通、寛永寺版としての出版を要望
- ・天台僧・慈等(じとう)が校閲者に命じられる



- 文化九年(1812):円通・慈等の往復書簡開始



- ・『暦象編答問』(写本。国会図書館等蔵)として現存
- ・激しい議論の応酬(夜国の存在等について等)



- 文化十二年(1815):「東叡大王府蔵版」として出版
cf. 慈等は老齡で文政二年(1819)没

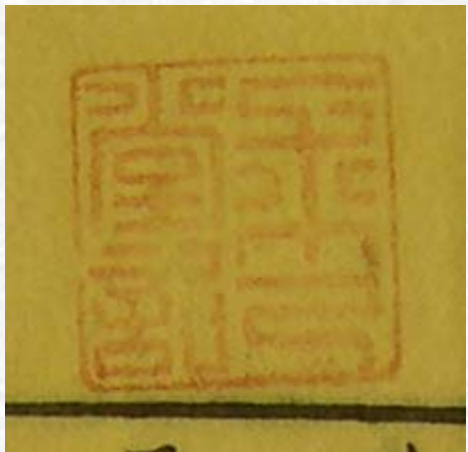
～以上のやりとりと、版本異同との関係の有無の考察が今後の課題～

[02]高橋本(天文台B本)

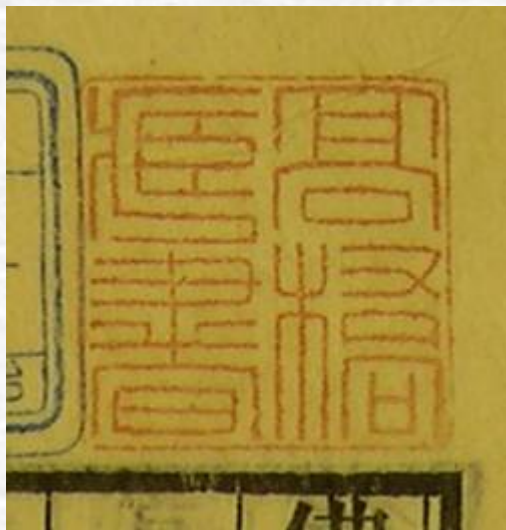
幕府天文方の高橋景保旧蔵本、卷一のみ別系統(口類以降)、卷二〜四に貼紙改修あり、書込み多数



印記



「求己／堂記」



「高橋／藏書」



「求己堂／圖書記」
朱・陽刻の小円印



?

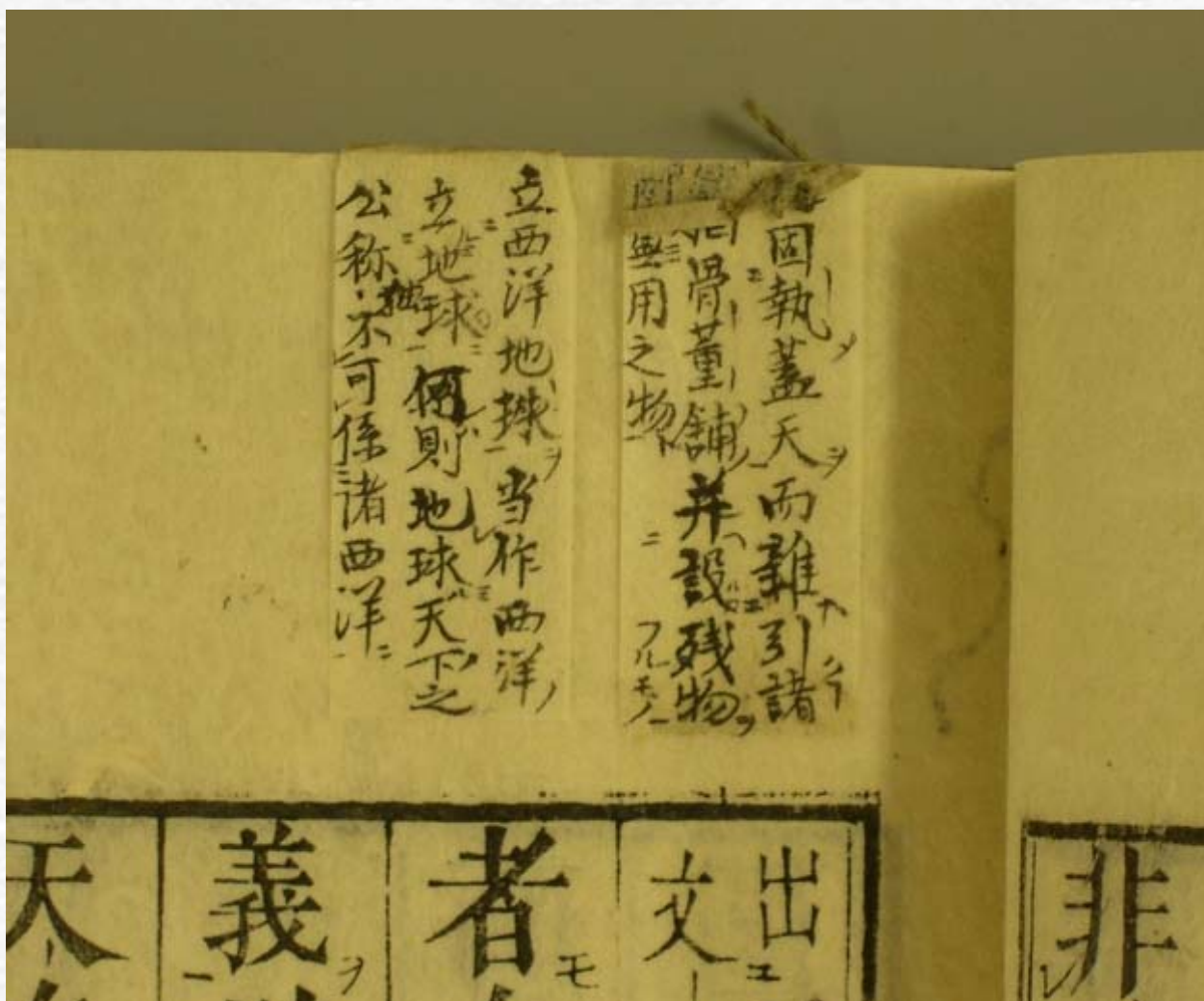
卷一冒頭、慈等による文化十一年の序文(写本として挿入)。唯一の現存例

佛國曆象編序
連城之壁無瑕也乃謂有瑕拋之可謂
智乎瑕纏玷巨察中有真寶叔而待五
人鑑之明也夫法寶之爲寶也勿論拔
於八苦而升諸天堂也地獄餓鬼畜生
劇苦畢脫終至無上妙果其緒餘尚翊
王度善俾萬姓脩整國家綏靜矣況極

文化甲戌初秋
僧正慈等撰

卷二以降に貼紙多数(筆跡複数)

「僧」円通」が蓋天説に固執して、諸書を雑然と引用しているのは、骨董屋が残り物をならべて売るようなものだ。もとより無用のものどもである」 卷二-16才



国立天文台三鷹図書室所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

円通の講演活動

- 梵暦・護法運動のために盛んに各地を講義してまわった円通

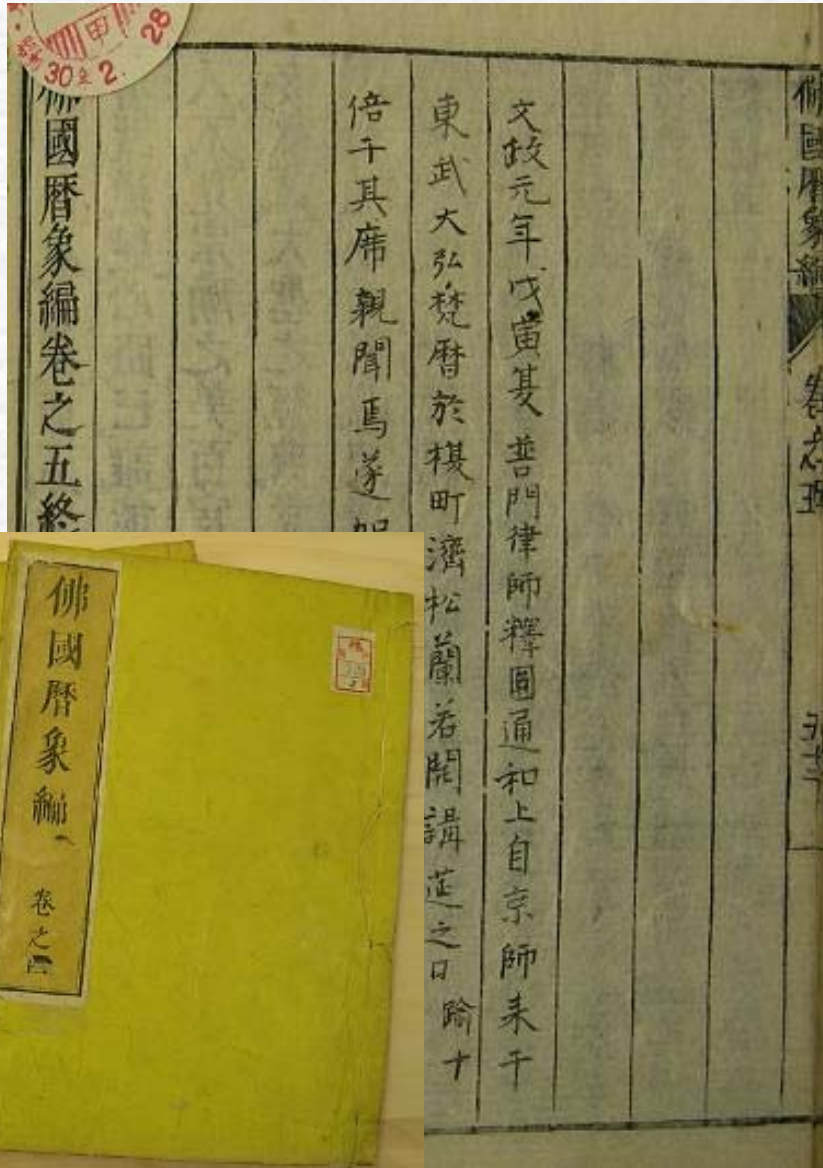
～ある年には大坂，高野山，堺，京・本願寺，延暦寺・西灘などで過密スケジュールの講義を行った結果、「今時法中五六百人ハ門人ニ加リ候」という盛況（『梵暦問答』写本。横浜市大等）

- 講義の内容が如何なるものであったかについては従来ほとんど不明

講義書込み本

「13」林文庫本の奥書

「文政元」一八一八」年の夏、釈円通和尚が京から江戸に来られて、大いに梵曆を広められた。榎町の済松寺で講義を始められ、私、踰十はそれに臨席してじきじきに教えを聞き、そうして「この本に」朱墨の書込みを加えた」



之暇傍學曆術陰陽之書傑出獨詣淵府者何也是
無他偏由親就金剛智不空等大賢瞿曇悉達等諸
英能熟梵法而參考之支那遂得成斯鴻業也耳

論梵曆漸入支那大較

此章詳入支那元
二教自也梵曆入支那元

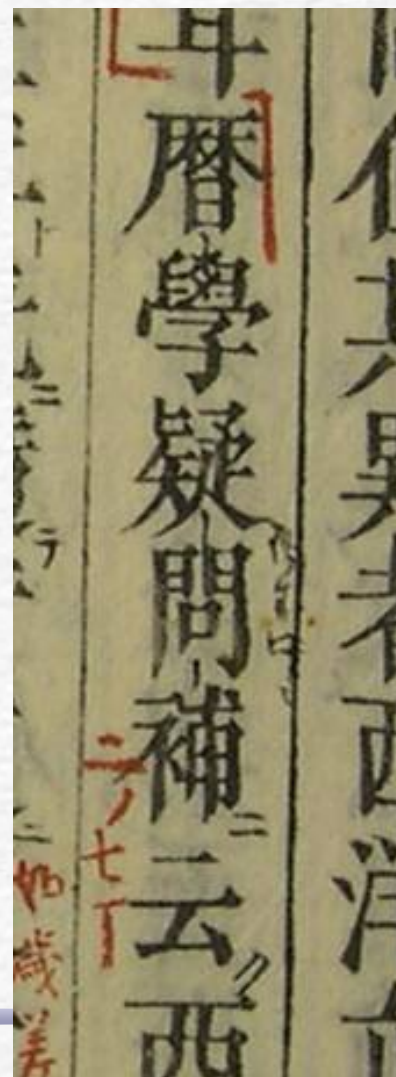
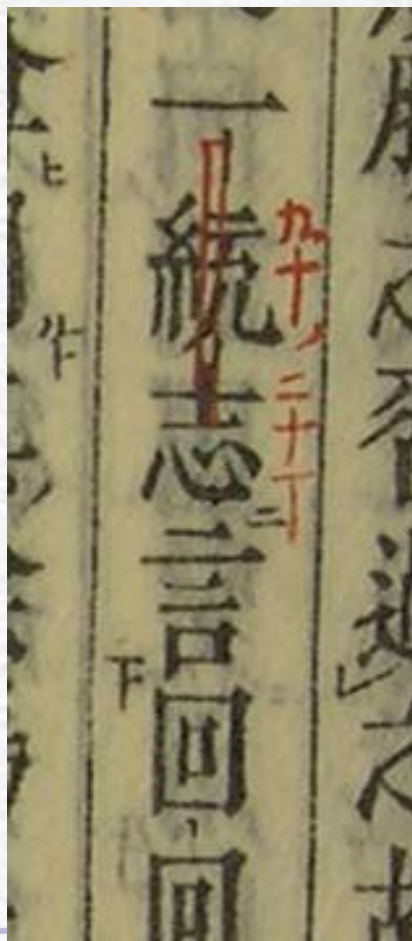
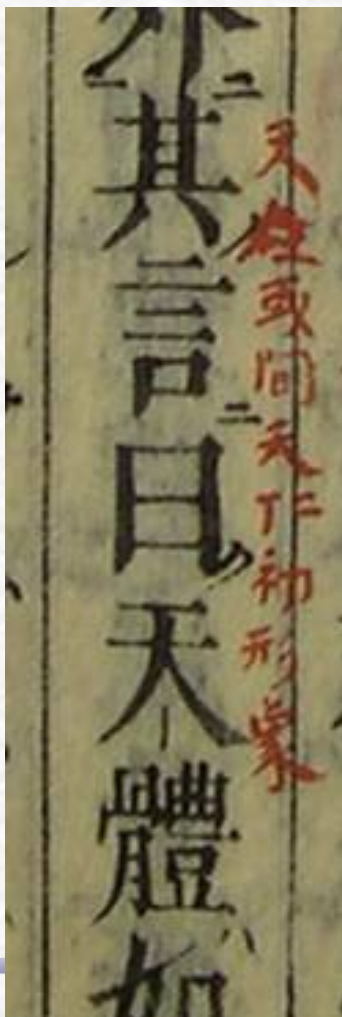
梵國之曆延浸支那甚有淵源按高僧傳慧嚴傳云
東海何羨天以博物著名乃問嚴佛國將用何曆嚴
云天竺夏至之日方中無影所謂天中於五行土德
色尚黃數尚五八寸為一尺十兩當此土十二兩建
辰之月為歲首及討覈分至推授薄蝕顧步光影其
法甚詳病度年紀咸有條例羨夫無所厝難後凌利

佛國曆法考卷之二
實地宜有土德之端曰
明天子以法為德
五帝七帝得之
要能見其真
神用其法
春三月
月服色黃
白地正
去法
法
法

國人來果同嚴說帝敕任預受焉梵曆之法傳于支
那其大者蓋是時之為始也宋史律曆志八云宋何
承天始悟測景以定氣序註云景極長冬至極短夏
至始立八尺之表連測十餘年即知舊景初曆冬至
常遲天三日乃造元嘉曆冬至加時比舊退減三日
蓋慧嚴所言討覈分至推授薄蝕顧步光影者即是
已非承天之創意也又吳黃武中所譯出摩登伽經
明時品明測影之法承天豈或據之邪又同律曆志
九云觀天地陰陽之體以正位辨方定時考閏莫近
乎圭表宋何羨天始立表候日景十年間知冬至周

何承天
宋史何承天傳曰承
天始悟測景以定氣
序註云景極長冬至
極短夏至始立八尺
之表連測十餘年即
知舊景初曆冬至常
遲天三日乃造元嘉
曆冬至加時比舊退
減三日蓋慧嚴所言
討覈分至推授薄蝕
顧步光影者即是已
非承天之創意也又
吳黃武中所譯出摩
登伽經明時品明測
影之法承天豈或據
之邪又同律曆志九
云觀天地陰陽之體
以正位辨方定時考
閏莫近乎圭表宋何
羨天始立表候日景
十年間知冬至周

引用書籍のどの箇所からの引用であるかを細かく指摘



*Draft-Not for quotation (2008-01-27 revised)

章の冒頭に、その章の論理展開の筋道に関する書込み

「西洋の地体の説(地球説)について」

この章は三つに分けられる

- ① 初めに西洋の地球説を紹介する
(出典を明記して引用)
- ② 二番目に、西洋地球説の由来について考察する
- ③ 三番目に、身近な例をあげて地球説を論破する

東北大学附属図書館 林文庫所蔵

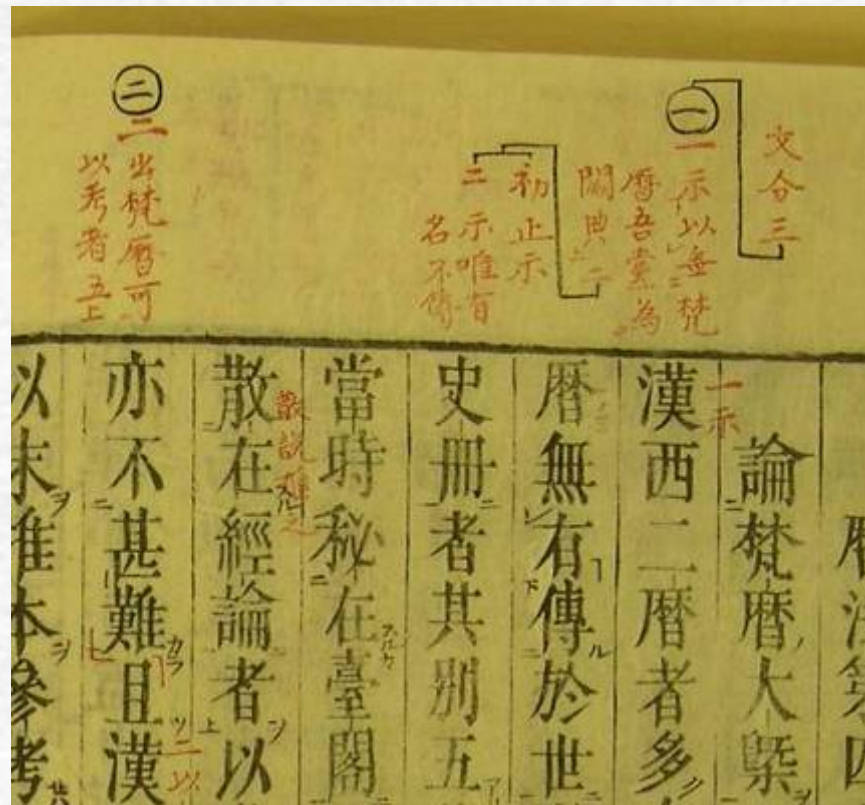
*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)



[21]藤原文庫本にも同類の書込み

→同じく円通講義筆記本である可能性

引用箇所
の指摘



章の論理構造について

～桑木A-D本から始まった諸版本調査

近世の版本の多様性と比較の重要性(1つとして同じものはない)

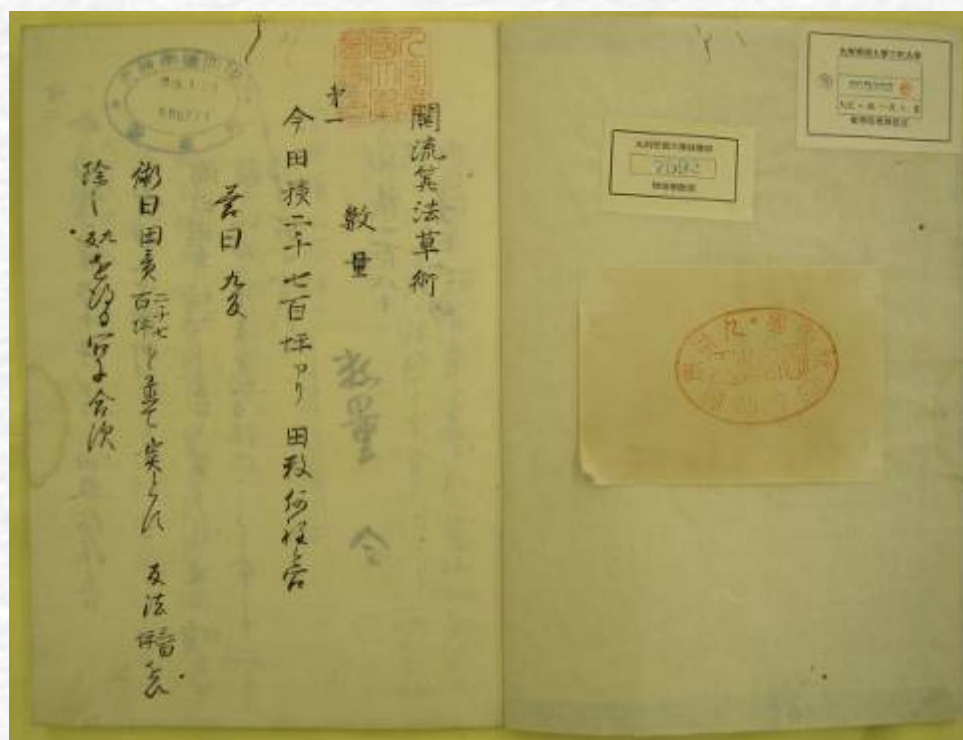
東北大学附属図書館 林文庫所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27 revised)

天文和算資料群

- 2003年、貴重書庫内で確認。
- 2004年1月、関係各位の御協力により、書誌採取終了。計128点（和書・近代刊本・洋書）
- 一部は、かつて桑木文庫の一部であったことが確実
- 九州帝大教授・伊藤徳之助寄贈本もある

関流算法草術(天和45)

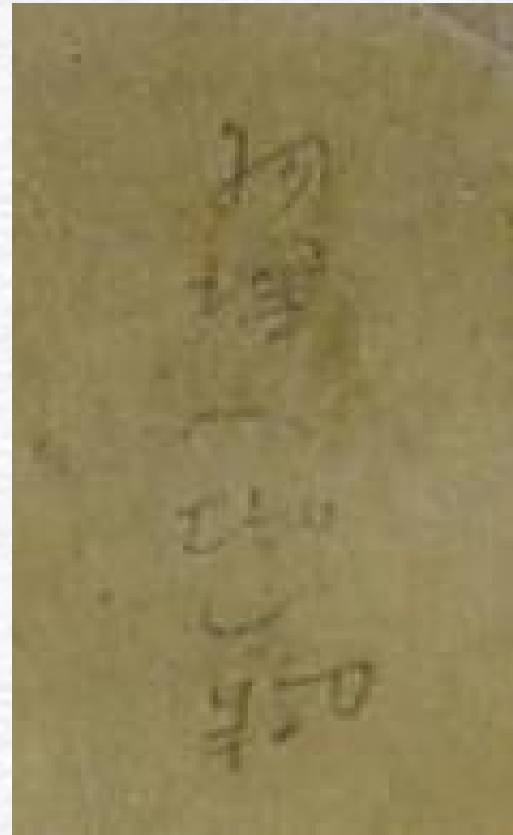
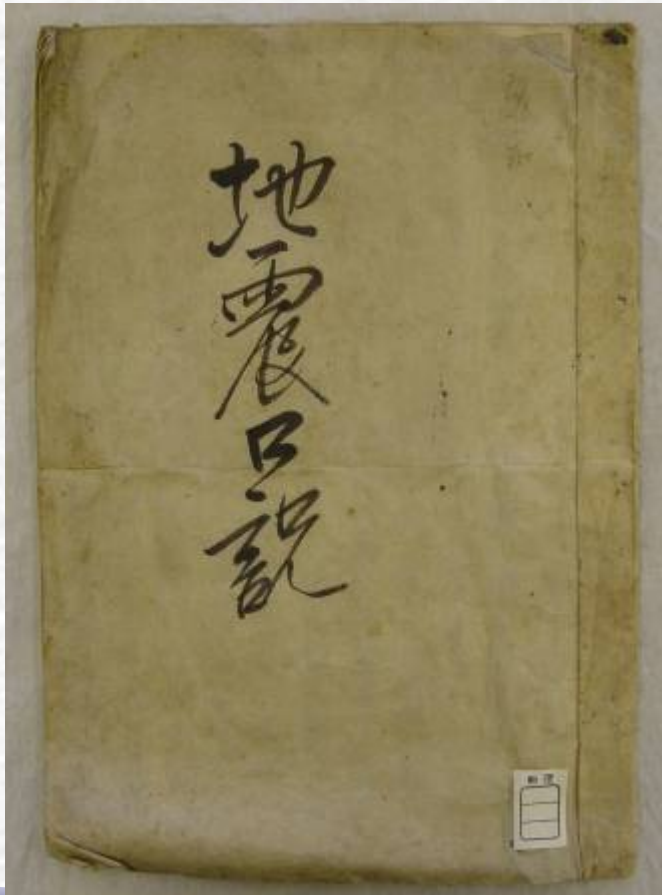


桑木文庫本と同じ受入れ印および票「九帝大工科学・数物教室(大正7)」

九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

地震口説(天和20)



九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

物理

(Ito)

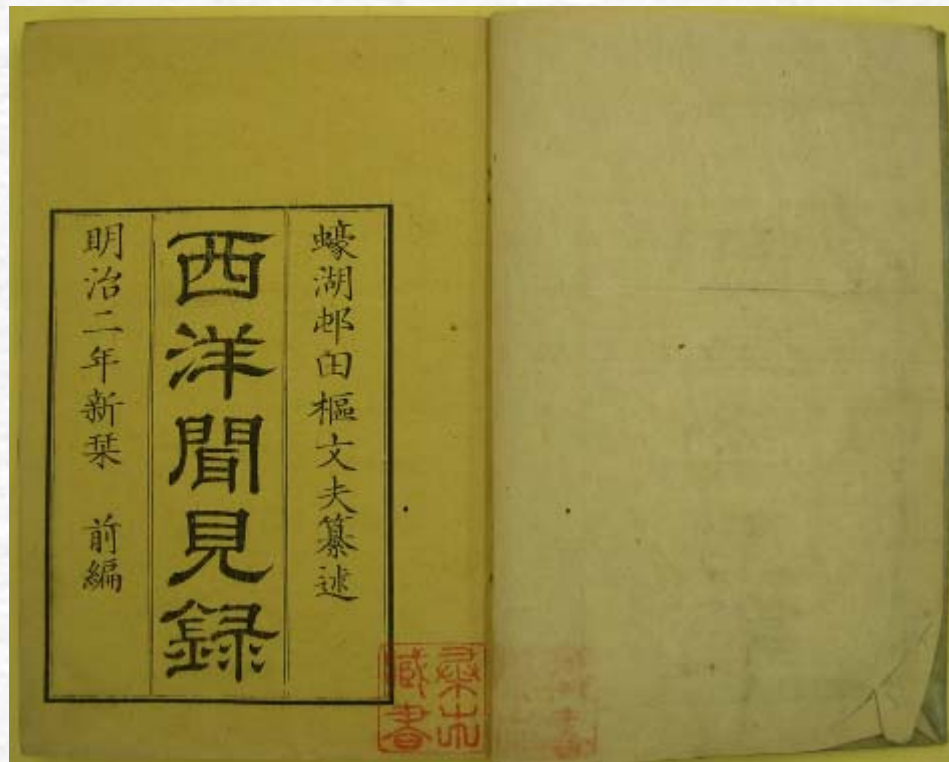
¥50

伊藤徳之助
寄贈本

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

西洋聞見録(天和130)

桑木蔵書？



九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

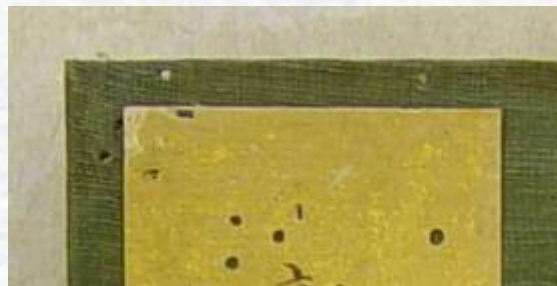
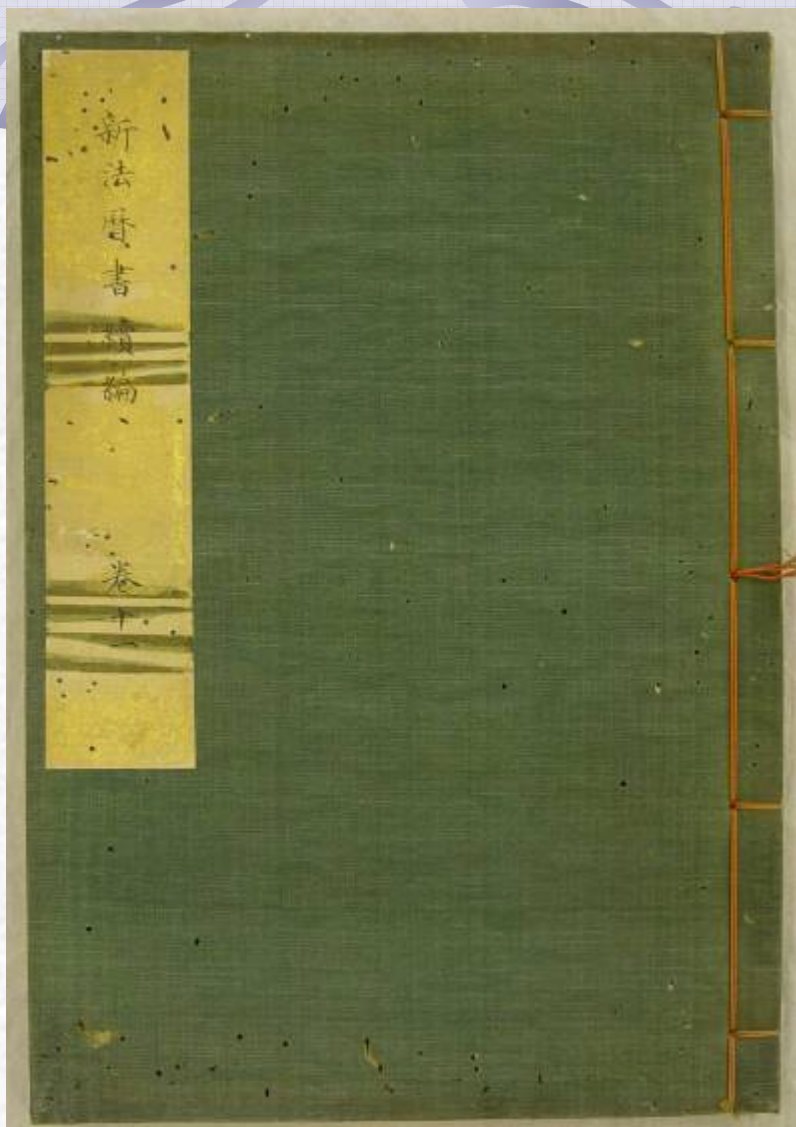
西洋新法曆書(天和121)8冊



九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

安部晴雄閱・渋川景佑他編・校

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)



九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

特装本

*Draft-Not for quotation (2008-01-27 revised)

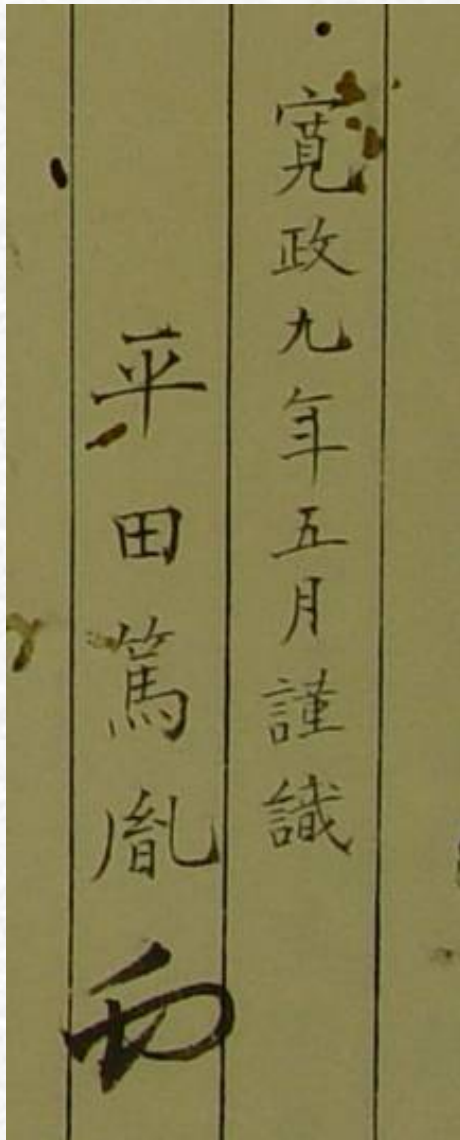
Cf. 狩野文庫の特装本 (内閣文庫にも同種)



東北大学附属図書館 狩野文庫所蔵

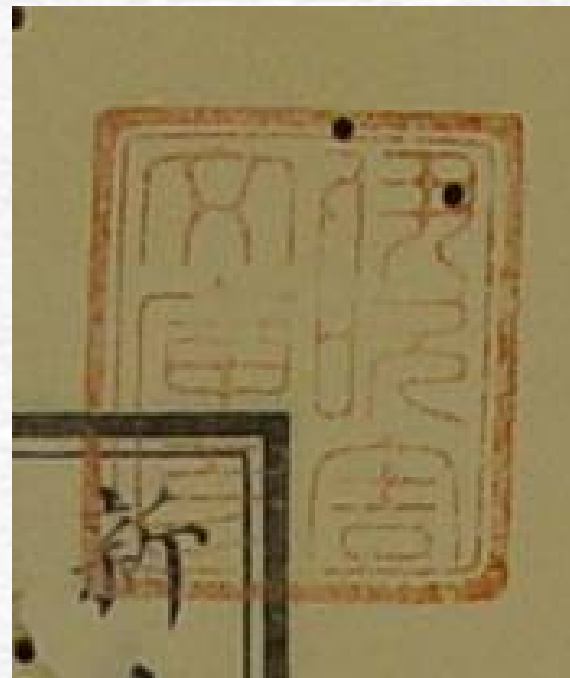
『暦法新書続録』(狩野文庫7-21069)

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)



和算天文資料群本には・・

- 平田篤胤識語・花押
- 「伊吹舎文庫」印



九州大学附属図書館 天文和算資料群所蔵

*Draft-Not for quotation (2008-01-27
revised)

まとめ

- 国内有数の科学史コレクション
他大学・博物館本と比較することによって、より多角的な位置づけと、学術的価値の顕揚が十分見込める
- 課題
 - 天文和算書資料群も組み入れた改定目録の出版(不十分な書誌、欠本も)
 - 著作・書簡の分析に基づく桑木略伝の出版。
 - 電子化